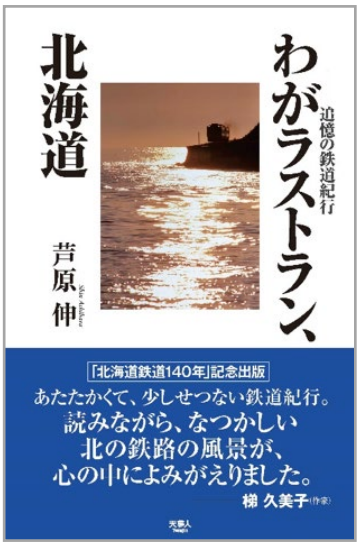
Temjin
An impress Group Company

各　位

2020 年 12 月 16 日
株式会社天夢人

「北海道鉄道 140 年」に蘇る、在りし日の鉄道旅アンソロジー
『わがラストラン、北海道　追憶の鉄道紀行』発刊

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝峰富雄）は、2020 年 12 月 18 日に、『わがラストラン、北海道　追憶の鉄道紀行』（芦原 伸）を刊行いたします。



2020 年は「北海道鉄道 140 年」という節目にあたります。1880 年に小樽（手宮）～札幌間に蒸気機関車「弁慶」が運転。北海道の歴史は鉄道に始まり、日本の近代化とともに北海道の産業は一気に成長しました。一時は 6000km ものレール網を持ち、「鉄道王国」といわれ、鉱山、漁業、畜産、馬産など開拓史とともに成長した鉄道も、いつしか時代の流れとともに衰退し、今は廃線がかつての栄光を静かに物語るだけです。

筆者は昭和 40 年代の学生時代、北海道で過ごしたことから、道内の鉄道を完乗した経験の持ち主です。本書は、筆者の北海道ラストランの記憶とともに、過去と現代が交錯する紀行集で、過去の発表作に加筆、書き下ろしを含めた珠玉のアンソロジーです。

【目次】

プロローグ　雪虫の舞う頃　（抜海・小樽・夕張）
第 1 章　ひとりぼっちの北帰行　「ゆうづる」の旅立ち　（上野―青森）
第 2 章　涙の青函連絡船　事件が起こった日　（青森―函館）
第 3 章　ニセコ街道をゆく　シロクニ（C62）の幻影　（長万部―小樽）
第 4 章　シベリア風の詩　道東、道北のローカル線紀行（釧路―稚内）
第 5 章　疾風「おおぞら」　北海道開拓史を駆ける　（函館―釧路）
第 6 章　帰らざる旅路　最後の蒸気列車（東室蘭―岩見沢）
第 7 章　「カシオペア」颯爽デビュー　豪華寝台列車の誕生（上野―札幌）
第 8 章　置き去りになった鉄路　函館本線（山線）（長万部―小樽）
第 9 章　鷗（ゴメ）が鳴いて、列車は消えた　留萌本線（深川―増毛）
第 10 章　アイヌの海をめぐる　函館本線・室蘭本線・日高本線（函館―様似）
第 11 章　黄金時代を求めて、夕張へ　石勝線夕張支線（追分―夕張）
第 12 章　最長どん行列車の旅　根室本線（滝川―釧路）
第 13 章　さらば！「北斗星」　わが青春の光　（上野―札幌）
第 14 章　さい果ての鉄道哀歌　花咲線（釧路―根室）
第 15 章　幻のタウシュベツ川橋梁　士幌線（帯広―十勝三股）

【筆者プロフィール】

芦原　伸（あしはら　しん）

1946 年生まれ。北海道大学文学部卒。ノンフィクション作家、紀行作家。日本ペンクラブ、日本文藝家協会、日本旅行作家協会会員。『旅と鉄道』『SINRA』（天夢人）の元発行人、編集人、統括編集長。近著に『ラストカムイ　砂澤ビッキの木彫』（白水社）、『へるん先生の汽車旅行~小泉八雲と不思議の国・日本』（集英社文庫）（第 10 回開高健ノンフィクション賞・最終候補作品）、『被災鉄道~復興への道』（講談社）（第 40 回交通図書賞受賞）、『森の教え、海の教え~辺境の旅から』（天夢人）、『新にっぽん奥地紀行~イザベラ・バードを鉄道でゆく』（天夢人）などがある。

【書誌情報】

書名：『わがラストラン、北海道　追憶の鉄道紀行』
仕様：四六版　328 ページ
定価：1800 円＋税
発売日：2020 年 12 月 18 日

全国書店、オンライン書店の Amazon などで発売中。
https://amzn.to/2UsWcKk

【株式会社天夢人】 https://temjin-g.com/
2007 年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道（奇数月 21 日発売）』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 https://www.impressholdings.com/
株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証 1 部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人　　担当：野口
Tel: 03-6413-8755 / E-mail: info@temjin-g.co.jp
URL：https://temjin-g.com/